

2016 1/26

No.2011

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



小学生ランナーが日ごろの練習の成果を競い合う「第25回よこはま国際ちびっこ駅伝大会」が16日、日産スタジアムで行われた。3674人が出場し、冬晴れの下を笑顔で駆け抜けた。



視点・点描 3

「花博」開催で活性化期待

講演録 4

シンポジウム「2016年の動向を読む」

パネリスト	共同通信社政治部長	小淵	敏郎
	共同通信社経済部長	東	隆行
	共同通信社外信部長	沢井	俊光
コーディネーター	神奈川新聞社論説主幹	林	義亮

経 済 10

地域貢献型の再生エネ導入を
売電収益活用で競争力強化

経 済 12

不測の事態にどう対応すべきか
企業の「危機管理能力」を調査

くらし2016 14

介護療養病床の転換方針決まる

広告珍談 16

広告はたのしい⑧
説教強盗に告ぐ！

NNAアジア経済レポート 17

神奈川景気データファイル 18

神奈川景気データファイル 19

事務局だより

◇横浜定例講演会

2016年2月10日（水）
富士ゼロックス神奈川と共催
「第7回神奈川TOPセミナー」

▽基調講演

15時30分～16時40分
講師はキリンホールディングス
元会長の荒蒔康一郎氏
演題は「キリンビールの経営改革」

▽特別講演

16時50分～17時50分
講師はマラソンランナー・スポ
ツコメンターターの千葉真子氏
演題は「命を輝かす人間」

以上、ホテルニューグランド
「レインボーボールルーム」

▽懇親会

18時～19時30分
ホテルニューグランド「ペリー
来航の間」

◇横浜定例講演会

2016年3月3日（木）
13時30分～15時
ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラ」

講師はノンフィクション作家の
小松成美さん
演題は「一流とはなにか～アス
リートたちの真実」

視点 点描



「花博」開催で活性化期待

約20年前、横浜市瀬谷区に住んでいた。そのころ区内を散策していると、「この広い場所を活用できれば、横浜の郊外部再生につながるのでは」と感じさせられる場所があった。米軍上瀬谷通信施設である。

瀬谷区と旭区にまたがり、面積は約242ヘクタール。終戦直後に国有地と民有地などを米軍が接收し、通信基地として利用していた

が、近年は事実上遊休化。2014年4月の日米合同委員会で15年6月末をめどに返還されることが承認され、日本に同月、返還された。

横浜市は跡地の活用について検討を始めた。国有地と民有地がモザイク状に入り乱れていることなどが課題だ。土地を交換する区画整理や土地改良といった手法なども導入し、地元住民の意向を踏まえ、長年米軍施設だったことで遅

れてしまった基盤整備を進めてほしい。

跡地活用をめぐり、新たな動きが出ている。国が国際的な花の祭典「国際園芸博覧会」の開催について検討を進めている。横浜市議出身で、衆院神奈川2区選出の菅義偉官房長官は神奈川新聞社のインタビューに対し、「市や経済界を含め、横浜のポテンシャルを高める上で極めて大事なイベント」などと述べ、支援する意向を表明している。横浜市の林文字市長も誘致に向けた動きを本格化する考えを示した。

1990年に大阪で開かれた「国際花と緑の博覧会（大阪花博）」には、世界各地から2300万人超が来場した。花博開催により相当数の集客や経済効果、世界的な知名度の向上が見込まれるほか、開催に伴う基盤整備が後の跡地活

用にも役立つのではないか。暫定的な土地利用の手法として有力な選択肢の一つであることは間違いない。

花博開催は横浜市民にとっても大きな意義がある。ぜひ実現してほしい。市には、上瀬谷が新たに生まれ変わることを生かし、農業振興や地域経済活性化など郊外部の再生をしっかりと進めるよう求めたい。

横浜では2017年に「全国都市緑化フェア」が開かれる。花と緑への理解や関心が高まり、花博開催に向けて弾みがつくことも期待したい。

市内には横浜ノース・ドック（神奈川区）などまだ返還合意されていない施設がある。市は粘り強く、実現を目指してほしい。

（神奈川新聞社統合編集局次長

石曾根 剛）

説教強盗に告ぐ!

まず、図をどうぞ。

「説教強盗に告ぐ!」「君の出没に依つて東京市民は一種の恐怖病に襲われてゐる。君もまた現在の悪業が長く続くものでもあるまい」

「即時自首して出よ」「この広告発表後、一週間内に自首すれば、実際、君のいふ如く家族が困窮しておれば、実情調査の上、家族に一千円を進呈しよう」。「この企ての成りいきは『平凡』誌上に発表す」と出版社・平凡社の広告である。

掲出されたのは1929(昭和4)年1月。その4年前から「説教強盗」なる怪盗が、東京市内に出没していた。28(昭和3)年9月、「また現れた説教強盗」。ある家に「押入つてくどくどと親切振

り」と朝日新聞は報じた。『説教強盗』と命名したのは、朝日の社会部記者だとか。100回以上も

犯行をかさね、現金4927円と多くの貴金属を入手。そのたびに家に入り込んで、被害者に説教をたれたという。

平凡社の広告に刺激されたのか、朝日新聞も懸賞金1000円

と社告。そのころ世界的に不況で、職を失つてひっそりと暮らす人を誤認逮捕したりと、警察に批判の目が向けられたが、ついに捕まった。

「帝都を恐怖させた説教強盗一捕はる」と大見出しで報じる朝日新聞。「四年越し帝都の内外をあたかも通り魔の如く出没し前後(判明せるもののみで)六十余回にわたつて襲い、四百万の府市民を極度に戦慄せしめ、遂に市内外

は府市青年団、在郷軍人の自警団までたち、議会の問題も引き起し

『説教強盗』に告ぐ!

君の出没に依つて東京市民は一種の恐怖病に襲はれてゐる。君も亦現在の悪業が長く続くものではあるまい。

即時自首して出よ。

此の廣告發表後一週間内に自首すれば實際君の言ふ如く家族が困窮して居れば、實情調査の上、家族に一千円を進呈しよう

この広告の発行は『平凡』誌上に發表す

東京朝日新聞下六番町

平凡社

た近年來の怪盗『第一世説教強盗』は永い間警視庁並に關係警察署の苦心慘たんたる捜査の結果「やつと逮捕された」と。

強盗に第一世とは、みごとな腕前にあやかりたい、二世説教強盗も出現。もちろん一世よりも先に御用になつた。

こんなオチもある。新聞各社は、報道競争。あせつた報知新聞は「説教強盗、ついに捕らえられる」と報じた。とうとう捕まえたかと市民は安堵したが、さにあらず。読者からのガサネタを警視庁に通報、警視庁もそのまま信じてある人を逮捕。こまつた報知は編集局長と次長、担当記者をクビ。おわび記事を社告で掲載した。

朝日の懸賞金は慰労金として警視庁に贈られた。平凡社はどうしたのか知らない。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(☒)説教強盗の広告・1929(昭和4)年1月、新聞に掲出